

## 魔法にかけられて

〈広島県〉 小川 亜衣子 おがわ あいこ 35歳

2014年8月20日未明に起きた土砂災害で、私の住む町は、今まで見た事のない光景へと変わった。

避難所へたどり着き、目まぐるしく変わる状況についていけない自分がいた。

体の不調が出て、毎日たくさん  
の医療チームとナースの方々にお  
世話になった。

災害支援のナースの男性には、  
診察してもらっている間、自然と笑  
顔になる声掛けをもらった。  
診察中に笑顔になる経験。この避  
難所で笑顔になり、笑い声を出せ  
たのが、初めてだった。

「早く良くなるかな?」  
「ここが、家じゃったら良くなるか

もしれんけど、環境が違うけえね」  
広島弁の温かみのある言葉。彼  
の話術。ほっこりした表情。私の心  
まで笑顔にしてくれた。数日後、  
福島からナースが来られた。母が、  
「今福島はどうですか?」と聞く  
と「普段通り生活しています」と  
近況を説明してくれた。

「これまでご支援ありがとうございます  
ございました」と言われ、私は「お互  
いさまです」と言った。すると、母  
が災害が起きてから今までの思い  
を語りだした。母がこんなに災害  
について口にするのは、同じ思いを  
共感し話してくれたから。最後に  
こんな言葉をくれた。

「スピリチュアル的なことになる  
んだけど、耐えられる所だけにし

か起こらないんだ、と福島の人たち  
ともよく言っていたんです」  
福島の人たちの今までの経験で  
出た言葉。ずっしりと響いた。福島  
の歴史。広島歴史。耐えてきた  
歴史があり、今がある。私の目の前  
にまぶしい光が見えてきた。まる  
で、言葉という魔法にかけられた  
ようだった。

それから私の体調も落ちつきを  
取り戻してきた。あの日かけられ  
た魔法は、今もそしてこれからも  
消えることができないようだ。